

国際小委員会での審議状況について

< 目 次 >

I. 国際小委員会での審議状況	1
II. 農業農村開発協力の展開方向	3
III. 国際かんがい排水委員会(ICID)第19回総会及び第56回国際執行理事会	5
IV. 国際水田・水環境ネットワーク(INWEPF)	11

平成18年3月23日

I. 国際小委員会での審議状況

本年度の審議状況は、以下のとおりである。

審議事項	第1回 (平成17年9月2日)	第2回 (平成18年2月16日)
1. 農業農村開発協力の展開方向 (1) 農業農村開発協力の展開方向 (2) 地域別協力方向の検討 (3) 今後の農業農村開発協力にかかる検討事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ 農業農村開発協力の「協力実績の評価」、「協力の意義・目的」及び「具体的な施策の方向」の検討 ・ 地域別として、中南米における農業農村開発分野の課題と協力方向の検討 <li style="text-align: center;">— 	<ul style="list-style-type: none"> ・ H16年度からの「農業農村開発協力の展開方向」見直し審議結果の取りまとめ <li style="text-align: center;">— ・ 展開方向で整理した具体的な施策の実現方法の検討
2. 国際かんがい排水委員会（ICID）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第19回総会及び第56回国際執行理事会の対応方針の検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第19回総会及び第56回国際執行理事会の報告
3. 国際水田・水環境ネットワーク（INWEPF）	<ul style="list-style-type: none"> ・ INWEPFの取り組みとH17年度の活動方針の報告 	<ul style="list-style-type: none"> ・ H17年度の活動状況と第4回世界水フォーラムに向けた取り組みの報告

食料・農業・農村政策審議会 農村振興分科会 農業農村整備部会
国際小委員会 委員名簿 (平成17年度)

委員長 (臨時委員)

しもむら やすたみ
下村 恭民 法政大学人間環境学部教授

専門委員

いななが しのが
稲永 忍 (独) 国際農林水産業研究センター理事長

こうの やすゆき
河野 泰之 京都大学東南アジア研究所教授

はせがわ しゅういち
長谷川 周一 北海道大学大学院農学研究科教授

はた けんじ
端 憲二 (独) 農業工学研究所水工部長

はた たけし
畑 武志 神戸大学農学部教授

めぐろ よりこ
目黒 依子 上智大学総合人間科学部教授

ゆげ あきこ
弓削 昭子 国際連合開発計画 (UNDP) 駐日代表

(五十音順、敬称略)

Ⅱ．農業農村開発協力の展開方向

1. 検討の背景

- 平成10年10月、かんがい排水審議会は国際部会がとりまとめた「21世紀における農業農村開発協力の展開方向」を農林水産大臣に報告。
- 平成13年度からは、アジア、アフリカ等の地域別に具体的な協力方向の検討を開始。
- 平成15年8月にODA大綱が改定されるなど、国内外の情勢は大きく変化するとともに、17年2月には新たなODA中期政策が策定。
- このような状況の中、平成13・14年度の東南アジア地域、15年度のサブ・サハラアフリカ地域、16年度の南西アジア、中東、中国、中央アジア地域の検討も踏まえ、平成10年に取りまとめられた「21世紀における農業農村開発協力の展開方向」の見直しを行うこととして、16年度から審議を継続。

2. 平成17年度の検討状況

(1) 農業農村開発協力の展開方向

- 第1回小委員会（平成17年9月2日）においては、平成16年度第2回小委員会で検討された①現状分析、②協力実施の整理に引き続き、③協力実績の評価、④協力の意義・目的、⑤具体的な施策の方向について検討。
- 第2回小委員会（平成18年2月16日）においては、平成16年度第2回小委員会及び今年度第1回小委員会で検討された結果を一つに取りまとめ、積極的に情報発信することを前提に、冊子形式で（別添参考資料2『農業農村開発協力の展開方向（案）』参照）取りまとめ。

(2) 地域別協力方向の検討

- 第1回小委員会で、地域別協力方向の検討の仕上げとして、中南米地域を対象とした農業農村開発分野の協力を検討。

(3) 今後の農業農村開発協力にかかる検討事項

- 第2回小委員会で、「農業農村開発協力の展開方向」で整理した「具体的な施策」を実現するため、効果的・効率的な施策の実現方法について検討する必要があることを確認。

Ⅲ. 国際かんがい排水委員会（ICID） 第19回総会及び第56回国際執行理事会

I 全体概要

- 1 開催期間 2005年9月10日(土)～9月18日(日)
10日～14日 : 各委員会、部会等
15日、16日、18日 : 総会
17日 : 国際執行理事会
- 2 開催場所 中国・北京
- 3 全体参加者 約500名（56カ国及び国際機関から参加）
- 4 日本からの参加者 中村 ICID日本国内委員会委員長
中條農村振興局次長
角田事業計画課長（ICID日本国内委員会事務局長）他
（計43名参加）

〔アジア地域作業部会の中で、中條農村振興局次長から第4回世界水フォーラムに向けた、ICID、INWEPF、PAWEESが連携した取り組みについてプレゼンテーションを実施。〕

II 総会報告

- 1 総会全体のテーマ
「食料および環境持続性のための水および土地利用」
- 2 総会の各課題
 - (1) 課題52 「かんがい農業における効率向上のための農地・農業用水管理の改良」
 - (2) 課題53 「洪水との調和共存」
(総会において日本から10名が論文発表。)
- 3 その他テーマ（日本人出席者関連）
 - スペシャルセッション : 法・制度面の課題に対する取り組み
 - スペシャルセッション : かんがい排水実務における変化に対する研究の推進

- シンポジウム : 水質と塩分の管理
- セミナー : 歴史的・伝統的かんがいプロジェクトの管理
- ワークショップ : かんがい用水の多面的役割と多様性
- ワークショップ : 感潮地域の持続的開発部会 (WG-SDTA) に関するICIDハンドブック 草案の評価
- ワークショップ : 食料および環境持続性のための水および土地利用—若手技術者の役割

(その他テーマにおいて日本から4名が論文発表。)

Ⅲ. 執行理事会報告

執行理事会の冒頭、ケイズールICID会長(マレーシア)の挨拶後、ICID事務局長、常設委員会委員長(組織計画・戦略委員会、技術活動委員会、財務委員会)より、ICID活動の母体である地域作業部会(4)、テーマ別作業部会・タスクフォース(23)の活動状況について総括的な報告。

我が国に関連する主な報告事項は以下の通り。

1 加盟国の状況

104ヶ国が加盟中、活動を行っている国は64ヶ国。

2 WWF 4に向けた取組み

アジア地域作業部会の主催で北京で行われたかんがいの多面的機能に関するワークショップの成果を出版物にまとめ、WWF 4で配布のための費用として日本国内委員会より8,000米ドルを提供。

戦略計画・組織委員会(PCSPOA)より、アジア地域作業部会が主催した「かんがいの多面的役割」に関するワークショップの成果をWWF 4へインプットする提案に関し支持表明。

3 ICID名称変更

ICIDの環境に対する関心を強調するために、ICIDの名称を「International Commission on Irrigation, Drainage and Environment (ICIDE)」に変更すべきか否かを検討してきたが、各ICID国内委員会の意見を受け、環境問題への関与を強めつつ、国際的に認知されているICIDの名称を引き続き使用。

4 ICID規約の変更

- ・規約3.1.3(g)「戦略テーマ」の統合作業の提言の追加

特定テーマに沿った活動及び分野横断的な活動をPCTA(技術活動委員会)の下で実施し、より幅広い問題への対処およびグローバルな問題の優先順位の速やかな変更を図るため、規約3.1.3(g)を追加。

5 I C I D 財政問題等

- ・収入増加と経費節減のためのタスクフォース設置提案有り。
- ・運営組織、財務体制、他の国際機関との協調関係など、ICIDの全ての問題のチェックを独立した外部団体に委託して、ICIDの外部評価を行う旨の提案有り。

※内部評価、外部評価を行うための委任事項(ToR)の策定をPeter S. Lee 次期会長に一任し、来年のマレーシア会議で報告予定。

6 会長・副会長選挙

- ・ピーター・リー（英）会長に当選。
- ・副会長3人（中国、ナイジェリア、スイス）の交代選挙があり、アメリカ、南アフリカ、中国が投票により新副会長に選出。
- ・アメリカのMr. Mark Svendsen は、最多得票で選出された。以下、南アフリカ（Mr. Felix B. Reinders）、中国（Mr. Gao Zhanyi）の順。

7 その他

- ・最優秀作業部会賞は歴史部会（WG-HIST）が受賞。（チエマンは八丁委員）

IV. 今後の国際会議スケジュール

1 既定のスケジュール

年	総会、理事会	アジア地域会議	開催地
2006年	第57回執行理事会	第3回アジア地域会議	クアラルンプール
2007年	第58回執行理事会	第4回アジア地域会議	テヘラン サクラメント
2008年	第20回総会 第59回執行理事会		ラホール(パキスタン) //
2009年	第60回執行理事会	第5回アジア地域会議	アブジャ(ナイジェリア) デリー(インド)

2 新たな国際会議の提案

インドネシア国内委員会は、第61回国際執行理事会と第6回アジア地域会議を2010年にインドネシアでの開催を正式表明。

ICID 日本国内委員会規約作成について

1. 経緯

昭和 26 年に ICID 日本国内委員会を組織し ICID に加盟（閣議了解）。
平成 2 年に ICID 技術交流費が予算化されたことを受け、ICID 活動推進委員会を設立。

2. ICID（国際かんがい排水委員会）の位置付け

- ①農林水産省組織令（第 80 条）
（事業計画課の所掌事務）
二 国際かんがい排水委員会に関すること。
- ②食料・農業・農村政策審議会農村振興分科会決定（第 2 条）
（農業農村整備）部会は、分科会の所掌事務のうち、次に掲げるものとする。
一 国際かんがい排水委員会に関する事項を調査審議すること。
- ③食料・農業・農村政策審議会農村振興分科会農業農村整備部会長決定
国際小委員会：国際かんがい排水委員会の活動に関する事項及び農業農村整備分野の国際協力の推進に関する事項。

3. 国内委員会規約について

平成 12 年に、ICID 本部は、特別委員会を設置し、「国内委員会の強化のためのガイドライン（案）」を作成。平成 16 年モスクワ会議において、国内委員会強化のための規約整備につき、各国に要請があったところ。

そのため、国内委員会会長及び委員の任期、選出方法について規約を整備し明文化することが必要。

なお、ICID 日本国内委員会の規約作成に当たっては、年 2 回行われている活動推進委員会を国内委員会と位置付ける方向で規約を整備。

国際かんがい排水委員会日本国内委員会規約（案）

（所掌事務と名称）

第一条 本委員会は、国際かんがい排水委員会（以下「ICID」という。ICID：International Commission on Irrigation and Drainage）に対応した日本の国内組織とし、国際かんがい排水委員会日本国内委員会（JNC, ICID：Japanese National Committee, ICID）と称する。

（目的）

第二条 本委員会は、ICIDの諸活動への参画とICID加盟国や関係機関との連携・交流及び積極的な情報発信を通じ、世界のかんがい排水等の技術の向上と食料供給の強化を図ることを目的とする。

（組織）

第三条 本委員会は、委員長、委員、事務局長、事務局により組織し、ICID活動を行うものとする。

第四条 委員は、かんがい排水の改良発展に関連する分野の有識者のうちから、事務局が推薦し、委員長が任命する。

また、委員は、ICIDの役員、ICID国際執行理事会の委員会・作業部会員等及びICID活動に関連する業務に携わることとする。

第五条 委員の任期は3年とするが、再任は妨げない。

また、参加する委員会、部会等についても同様に見直しを行う。

第六条 本委員会に委員長を置き、委員長は委員のうちから互選する。

（活動内容）

第七条 本委員会の活動内容は以下のとおりとする

- ・本委員会の活動方針の検討及び運営
- ・ICIDの役員及びICID国際執行理事会の委員会・作業部会員等の推薦
- ・ICID国際執行理事会の委員会・作業部会等の参加及び活動

（運営）

第八条 国内委員会は、委員長が招集する。

(事務局)

第九条 本委員会に事務局を置き、事務局は農林水産省農村振興局企画部事業計画課に置く。(農林水産省組織令第一章、第三款、第六目、第八十項二に基づく)

(事務局長)

第十条 事務局長は、農林水産省農村振興局企画部事業計画課長とし、本委員会の事務を司る。

(施行期日)

第十一条 本規約は、平成 年 月 日より施行する。

IV. 国際水田・水環境ネットワーク（INWEPF）

INWEPFの取り組みについて

1 INWEPFについて

〔国際的な水議論の状況と課題〕

- 農業用水は、欧米等の乾燥・半乾燥地農業を中心に議論され、地下水枯渇等の環境への悪影響の面が強調されがちな状況。
- 環境保全のため、農業用水への規制や補助金削減につながりかねない議論があるところ（OECDでも議論）。

環境へのプラスの側面を持つアジア水田農業の特質のアピールが重要

第3回世界水フォーラムの開催（2003年3月、日本）

農林水産省は、農業大臣会合（「水と食と農」大臣会合）を開催し、水田かんがいの特質と重要性をアピール。

国際水田・水環境ネットワーク（INWEPF）の創設

(International Network for Water and Ecosystem in Paddy Fields)

大臣会合の提起を踏まえ、日本のイニシアティブで、アジアの水田と水利用に関する情報交換の場として創設。

（15カ国、10国際機関等が参加。事務局は各国の持ち回り。）

2004年11月：第1回会議（東京） 2005年11月：第2回会議（ソウル）

INWEPF メンバー国、国際機関

中国 韓国（第2回運営会議開催） マレーシア（第3回運営会議開催） カンボジア スリランカ
ネパール インドネシア タイ ベトナム ミャンマー フィリピン ラオス
バングラディッシュ エジプト 日本（第1回運営会議開催）

世界銀行（WB） FAO 国際稲研究所（IRRI） 国際水関係研究所（IWMI） メコン河委員会（MRC） 国際参加型水管理ネットワーク（INPIM） 国際かんがい排水委員会（ICID） アジア生産性機構（APO） 国際水田・水環境工学会（PAWEES） アジア開発銀行（ADB）

2 平成17年のINWEPFの活動

(1) 国際会議等への情報発信

- FAO・オランダ共催「食料と生態系のための水 国際会議」をはじめ、多数の国際会議において、農業用水の効果的かつ持続的な水利用や水田農業の有する多面的機能についてのセッション、ワークショップに参加。

(2) ヴァーチャルミーティング（2005年9月26日～10月14日）

- 「モンスーンアジアにおける水田農業の多面的価値」というテーマで、インターネットを利用したヴァーチャルミーティングを開催。ミーティングには153人が参加し、250件のコメントが寄せられた。

(3) INWEPF 第2回運営会議及びシンポジウム

- 2005年11月2～4日、韓国の主催でソウル市内にて開催。

① シンポジウム

「多面的機能と環境について」と「統合水管理・参加型水管理」をテーマとしたセッションを設け、水田農業の持つ多面的機能の重要性及び水利用の実態にかかる共通認識の醸成を図った。

また、特別セッション「第4回世界水フォーラムに向けて」を行い、第4回世界水フォーラムに打ち出すメッセージについて議論。

② 第2回運営会議

INWEPF の1年間の活動報告が行われ、INWEPF の組織規約、戦略的活動計画の改正について議論を行い、合意が得られた。

また、第3回運営会議をマレーシアが主催することを決定。

(4) その他の活動

- ニュースレター、ウェブサイトを開設し、情報を公開。

URL:<http://www.maff.go.jp/inwepf/index.htm>

3 INWEPF 第3回運営会議に向けた対応

- 本年9月、マレーシアにおいて第3回 INWEPF 運営会議を開催。我が国としても、主催者である INWEPF マレーシア国内委員会と連絡を取りつつ、会議運営を積極的に協力・支援。

構成（案）：

- ・ 第3回運営会議（2007～08 戦略行動計画に関する議論を想定）
- ・ シンポジウム（「多面的機能と環境」「統合水管理、参加型水管理」の2つのセッションを想定）

4 第4回世界水フォーラム（WWF4）に向けた取り組み

○本年3月、メキシコシティにおいて開催された第4回世界水フォーラムに参加。①水田及び水田用水に関するセッションの開催、②水 EXPO に展示の2種類の活動により、水田の持つ多面的機能の重要性を世界に向けて発信。

(1) 第4回世界水フォーラムの概要

月 日：平成18年3月16日～22日

場 所：メキシコ、メキシコシティ

テーマ：世界的課題解決に向けた地域の取り組み

(Local Actions for a Global Challenge)

構 成：フォーラム(約150のセッション)、閣僚級国際会議、水フェア(各種パフォーマンス等)、水 EXPO(水関係会社・団体の展示ブース)水関連賞授与式(京都水大賞等)

(2) 水田及び水田用水に関するセッションの開催

月 日：平成18年3月20日(2時間)

主催者：国際水・水田環境ネットワーク(INWEPF)、

国際かんがい排水委員会アジア地域作業部会(ASRWG/ICID)

テーマ：水田における持続的な水利用と多面的機能、より良いガバナンス

(Sustainable paddy water use and its multi-functionality with better governance)

主な構成：ローカルアクション(地域の取り組み)の発表

パネルディスカッション

オープンディスカッション

○アジアモンスーン地域を中心とした農業用水(特に水田用水)をテーマにしたセッションを実施。具体的な構成としては、農業用水の多面的機能に関する地域の取り組みの発表、パネルディスカッション等。

○セッションは INWEPF と問題意識を共有し得る国際かんがい排水委員会(ICID)アジア地域作業部会(ASRWG)と共催。水フォーラムの枠組みテーマ「食料と環境のための水管理」、横断的課題「科学・技術・知識の応用」に位置づけ。

- 第4回世界水フォーラムでは、ローカルアクション（地域の取り組み）を最重要視。これを踏まえ、INWEPF、ICID アジア地域作業部会の各々の取り組みをローカルアクションとして発表。

ICID アジア地域作業部会：第54回 ICID 国際執行理事会のアジア地域作業部会において、第3回世界水フォーラムのフォローアップとして設立された「かんがいの多面的役割・多様性に関するワークチーム」の議論成果の発表。

INWEPF：設立の背景・趣旨を紹介した後、これまでの活動としてヴァーチャルミーティングや INWEPF シンポジウムの結果等を発表。最後に第2回運営会議で合意。「INWEPF から WWF4 へ向けてのメッセージ」を発表。

[メッセージの概要]

- ・農業用水の持つ多面的機能が十分に発揮されるようにする
- ・地域に蓄積された経験と知識を踏まえた参加型の水管理を目指す
- ・適切な水管理に向けて行政も積極的な役割を果たす

- パネルディスカッションには国連世界食料機関 (FAO)、国際水関係研究所 (IWMI)、メコン河委員会 (MRC)、国際かんがい排水委員会 (ICID) 等の国際機関、INWEPF メンバー国が参加。パネリストのみならず、広くセッション参加者も含めて意見を交換するオープンディスカッションも実施。

(3) 水 EXPO における展示

- 第4回世界水フォーラムの会期中、フォーラム会場内で企業・団体等による展示会が開催。会場内に INWEPF の展示ブースを設置し、INWEPF の活動や、我が国の水田・水田用水の状況を紹介。

月 日：平成18年3月16日～21日

展 示：我が国の水利施設等のパネル等による展示

水田・農業用水の多面的機能についてのパネル等による展示
疏水カレンダー（美しいかんがい施設の写真）の配布 等



“Sustainable paddy water use and its multi functionality with better governance”

Date: Monday, March 20 16:45~18:45
Venue: Casa Montejo1, Centro Banamex, Mexico city



What is necessary for sustainable food production?
What are multiple benefits of paddy fields?
What is the good governance of paddy water use?

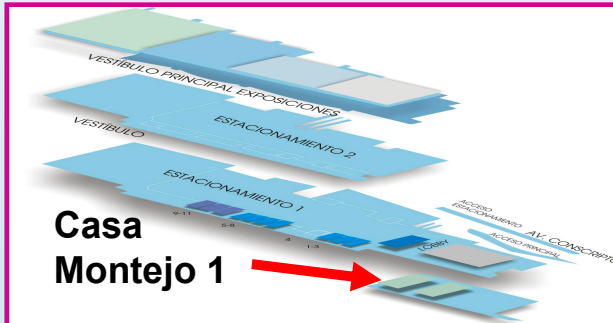
Abstract

Water for rice in paddy systems is not only vital for food production, but also provides a broad range of services related to society, culture and the ecosystem.

The session aims:

- To exchange common understanding in paddy farming and water and
- To realize sustainable paddy farming and its water systems with better governance

Map



Program

Time Schedule	Issue	Presenters
5 minutes (16:45~16:50)	Opening Remark	Chair: Datuk Ir.Hj.Keizrul Abdullah
25 minutes (16:50~17:15)	ICID Session <i>Presentation of local action of ICID</i>	Dr. David Molden (IWMI) Dr. Nobumasa Hatcho (Kinki University)
25 minutes (17:15~17:40)	INWEPF Session <i>Presentation of local action of INWEPF</i>	Mr.Nakajo Yasuro (Japan INWEPF Committee) Dr. Jo Jin Hoon (Korea INWEPF Committee)
60 minutes (17:40~18:40)	Panel Discussion and Open Discussion -Presentation from resource person <i>Dr. Kazumi Yamaoka (NIRE Japan)</i> <i>Dr. David Groenfeldt (Indigenous Water initiative)</i> -Short presentation from some panelists -Open Discussion -Wrap up	Dr. David Molden (IWMI) Mr. Facon Thierry (FAO) Mr. Mohad. Azhari Ghazalli (ICID) Dr. Jo Jin Hoon (Korea representative) Mr. Chatchai Boonlue (Thailand representative) Dr. Kazumi Yamaoka (NIRE Japan) Dr. Tu Dao Trong (MRC) Dr. David Groenfeldt (<i>Indigenous Water initiative</i>) Mr. Peter Bridgewater (Ramsar Convention on Wetlands)
5 minutes (18:40~18:45)	Closing Remark	Chair: Datuk Ir.Hj.Keizrul Abdullah